

一般会計予算決算常任委員会
理科大分科会記録

平成30年9月11日

【開催日】 平成30年9月11日

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午前11時25分～午後0時12分

【出席委員】

| | | | |
|------|------|-------|------|
| 分科会長 | 高松秀樹 | 副分科会長 | 藤岡修美 |
| 委員 | 奥良秀 | 委員 | 笹木慶之 |
| 委員 | 中村博行 | 委員 | 松尾数則 |
| 委員 | 森山喜久 | 委員 | 山田伸幸 |
| 委員 | 吉永美子 | | |

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

| | | | |
|------|-------|-----|------|
| 議長 | 小野泰 | 副議長 | 矢田松夫 |
| 傍聴議員 | 長谷川知司 | | |

【執行部】

| | | | |
|------------|------|-----------|------|
| 副市長 | 古川博三 | 大学推進室長 | 大谷剛士 |
| 大学推進室副室長 | 榎坂昌歳 | 大学推進室技監 | 泉本憲之 |
| 大学推進室室長補佐 | 山本玄 | 大学推進室主任主事 | 尼崎幸太 |
| 建築住宅課建築係技師 | 藤重智典 | | |

【事務局出席者】

| | | | |
|----|-----|------|-------|
| 局長 | 中村聡 | 議事係長 | 中村潤之介 |
|----|-----|------|-------|

【付議事項】

- 1 議案第70号 平成30年度山陽小野田市一般会計補正予算（第3回）について
- 2 議案第58号 平成29年度山陽小野田市一般会計歳入歳出決算認定について
(理科大分科会所管分)

高松秀樹分科会長 それでは、一般会計予算決算常任委員会理科大分科会を始めます。まず、最初に議案第70号、平成30年度山陽小野田市一般会計補正予算（第3回）について、執行部、説明をお願いします。

大谷大学推進室長 それでは、平成30年度山陽小野田市一般会計補正予算（第3回）の大学関係分につきまして御説明します。補正予算書16、17ページ、歳出です。このたびの補正は、平成30年度の普通交付税額が決定したことに伴い行うもので、2款総務費、7項大学費、1目大学費、25節積立金、公立大学法人運営基金積立金を334万8,000円増額するものです。これにより、補正前の大学費25億5,809万7,000円が334万8,000円増額となり、補正後の額が25億6,144万5,000円となります。大学分として措置される普通交付税につきましては、原則として公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学への運営費交付金や大学関連事業の経費として、また現在、薬学部校舎増築工事を実施していることから、平成30年度は、大学分として措置される普通交付税額の20%を薬学部校舎建設費等に充当することとしていますが、これらの財源として充当した後、なお余剰があれば、公立大学法人運営基金に積み立てることとしています。それでは補正の内容について御説明します。平成30年度の当初予算におきましては、大学分として交付される普通交付税の額を18億2,280万円と見込んで、運営費交付金の財源として13億485万6,000円、大学関連事業の経費として3,110万3,000円、薬学部校舎建設費等に大学分として交付される普通交付税額の20%に当たる3億6,456万円を充当することとし、残りの1億2,228万1,000円を公立大学法人運営基金に積み立てることとしていました。しかし、このたび普通交付税額が決定したことにより、大学分として交付される普通交付税額が18億2,698万4,000円となり、418万4,000円増額となりましたことから、増額分の20%となる83万

6,000円を薬学部校舎建設費に充当し、残りの334万8,000円を公立大学法人運営基金に積み立てるものです。薬学部校舎建設費に充当します83万6,000円につきましては、2款総務費、1項総務管理費、8目財産管理費、25節積立金、財政調整基金積立金に計上しています。以上で説明を終わります。御審議のほど、よろしくお願い致します。

高松秀樹分科会長 委員の質疑を求めます。

山田伸幸委員 交付税が増額になったということなんですけど、これは何か要因があるんでしょうか。

山本大学推進室室長補佐 交付税が増額になりました要因は、交付税の算定の方法をまず御説明しますと、学生数、それに学生一人当たりの単価を掛けます。それぞれ工学部、薬学部で単価も若干違いますので、この辺りの数字が予算上のものと変動してくれば、確定値と予算で見込んでいた額との間でかい離が生じます。今年度につきましては、工学部のほうが予算よりも実績が2名増、薬学部は逆に1名減。一人当たり単価につきましては、工学部が2,540円増、薬学部が2,220円増。その結果、先ほど申しました418万4,000円、当初予算の見込みを上回ったという結果です。以上です。

高松秀樹分科会長 ほかに質疑はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）それでは質疑を終わります。続きまして、議案第58号、平成29年度山陽小野田市一般会計歳入歳出決算認定についてです。審査事業がありますが、これはページを見ていただいて、（発言する者あり）31からです。まず、審査資料ナンバー31の説明をお願いいたします。

大谷大学推進室長 それでは、審査対象事業ナンバー31、山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部校舎建設事業につきまして御説明します。資料は

104ページです。当該事業の概要としましては、平成30年4月に山陽小野田市立山口東京理科大学に薬学部を設置するため、薬学部の教育研究活動に必要な校舎、研究機器類などの施設設備の整備を行うものです。当該事業の当初計画では、平成28年度から平成30年度の3か年で校舎、薬草園、運動場等の施設の整備を、平成29年度から平成31年度の3か年で研究機器類の整備を行うこととしておりましたが、計画当初から非常にタイトなスケジュールであったことに加え、校舎の建設に係る工期について適正な工期を設定していなかったことや設計に問題があったこと等の問題から、B棟を除き計画どおり工事が進捗していない状況となっています。大学、議会をはじめ関係者の皆様に大変御迷惑、御心痛をお掛けしている状況であり、誠に申し訳なく思っています。平成29年度の事業につきましては、当初の計画では、くい工事、A棟、B棟、C棟、危険物倉庫、排水処理設備の建設、駐車場、校内及び江汐公園の二つの薬草園、運動場とテニスコートを除く外構の整備が完成し、研究機器類の整備については全体の85%の整備を終えるものとしていました。しかしながら、先ほども申し上げましたが、適正な工期が確保されていなかったことからA棟の建設が遅れたこと、設計の問題から入札の不調が続きC棟施工業者の決定が遅れたこと、そして、これらの工事が遅れたことにより危険物倉庫等や外構、研究機器類の整備にも影響が出てくることとなり、くい工事、B棟、江汐公園の薬草園以外については計画どおりの平成29年度内に、整備を終えることができませんでした。この結果、活動指標又は成果指標の薬学部校舎等建設スケジュールの実績が77.8%、薬学部研究機器類整備額の実績が59.6%となり、目標達成度をC評価としています。これらのことから当該事業の課題及び改善策としまして、平成29年度末までに完成する予定としていました工事を、平成30年度に繰り越す結果となったことから、当該事業を平成30年度に完成させるとともに、これらの影響を受けて、平成30年度に着手できなかった運動場やテニスコート、外構等の整備に1日でも早く着手し、完成できるよう事業を進めてまいりたいと考えています。今後の方向性としてしましては、当該事業は、山陽小野田市立山口

東京理科大学薬学部の教育研究活動において、必要な施設、設備を整備するための有効な事業でありますので、現在、当初の計画どおりに事業は進捗していませんが、大学の運営及び教育研究活動に支障とならないよう、又はその影響が最小限となるよう、大学と調整を図りながら、1日でも早い完成を目指して整備を進めてまいりたいと考えています。次に、当該事業の事業費の支出につきましては、その内訳を資料105ページで御覧いただければと思います。なお、大学費につきましては、大学事業費と大学校舎建設事業費の二つの細目があり、当該事業は大学校舎建設事業費となりますが、歳入歳出決算書におきましては、この二つの細目を合計したものが決算額として、各費目に記載をされています。このため大学事業費と大学校舎建設事業費に同じ費目がある場合は、歳入歳出決算書の金額と資料105ページの金額が異なることとなっておりますので御了承ください。以上で説明を終わります。よろしく申し上げます。

高松秀樹分科会長 説明が終わりました。委員からの質疑を求めます。

山田伸幸委員 大変気になる言葉があります。適切な工期を設定できなかった。これは工期遅延が言われ出してから出てきた言葉です。昨年の3月とかですね、それ以前で、こういう言葉は出てこなかったし、逆に、様々な手法を使って、工期は守りますということで、工事はスタートしています。そういったことから、もう適切な工期が設定できなかったと言いさえすれば、全てが通るという安易な考え方があるのではないかなと受け取らざるを得ないんですが、いかがでしょうか。

大谷大学推進室長 今、御指摘があったとおり、これまでもこういった工期の遅延ということで適切な工期を確保できなかったという御説明をしています。これは、昨年来、10月以降、私どものほうで業者とヒアリングした中で、こういった事態、前市長への確認も含めて、こういった事態が分かったということで、それ以前、こういった状況が分かるまでは、

平成30年の2月28日の工期に向けて、建設を目指していたということです。結果的に事情が分かってきた段階で、適切な工期を確保していなかったことが分かったということです。

山田伸幸委員 ちょっとおかしいですね。私たちが受けた当初の説明はそういうことではなくて、今までの工法から新たな工法を採用することによって、それは工期短縮が図られますと。あるいは、くい打ち工事を別途契約していただければ、それを分離発注して、更に短縮が図られます。そういう説明は受けておりました。ですが、やはりそういった当初のことから、遅れたことが全て適切な工期を設定できなかったという言葉でくくりにされている。そういうふうにはしか受け取れないわけですね。今、説明をされてきましたけれど、やはり繰越しにしても、議会のほうから求めて、ようやく繰越明許ということですね、その内訳も明らかにすることなど、体制の不備も、先ほども議案審議の際にも言いましたけれど、やはり大きな要因の一つではなかったのか。それをきちんと精査することが、やはりこれからの山陽小野田市の在り方、身の丈に合わないようなですね、工事を無理やりやってきた、そのツケが回ってきているのではないかなと思っているんですが、繰越明許も含めて、やはり、当初から狂いが生じてきた。どの時点からその狂いが明瞭になってきたのか、その点はいかがですか。

大谷大学推進室長 これは、今までも議会のほうでも御説明しておりますが、業者の確認をして、弁護士からの文書を出して、それからこういった事態が動き出したということです。最終的に、前市長のところにお伺いをして確認をしたのが、今年の1月の26日。そして、これは公表しましたが、署名捺印していただいた文書が1月30日ということ。そして、監理業者から実際に進捗率が出て、11月末までは計画どおりで、実際に分かったのが1月の12日だったと思いますが、その時点で明確に数値としても出てきた。そして事情として、こういった前市長の平成28年10月3日での、こういったことの発言があった。業者もそう認識を

していると。そういった実態があったことから、このたびのような適正な工期を確保していないことを、その時点で私どももはっきりと認識したということです。

山田伸幸委員 これは以前お聞きしていたんですが、申請の段階では、途中の文科省が視察に来るかもしれないということを勘案して、進捗率が間に合っているかのような、そういう工期設定がされていたと認識をしているんですが、その点ではいかがでしょうか。

大谷大学推進室長 私も実際には、そこを認識して業務をしていませんでしたが、その中で、議会のほうで答弁が参考人招致等でいろいろあったかと思いますが、そういったことで工期を考えておられたと。で、たしか、文科省の1か月だけはどうしても対策をなかなか取ることができなかったということも御説明があったと思いますが、そういった事態ということで。私も全てを把握していなかったということで大変申し訳ありませんが、そういったことです。

高松秀樹分科会長 ほかに質疑はありますか。

笹木慶之委員 104ページでお尋ねしますが、事業概要のところ、枠の中に、下から2番目で、平成30年度末まで研究機器類の整備については平成31年末までと書いてあります。目標達成のところ、課題及び改善策で、中段に研究機器類の整備については平成30年度で終わらせるとなっていますが、このように改善するということですか。最初の計画は、一部遅れたという、事業概要のところはね、遅れたと書いてあって、そして、それはそれでいいんですが、もう1回言いますと、研究機器類の整備については平成31年度末までに完了すると書いてありますね。ところが、課題及び改善策は平成30年度に完了すると書いてありますが、そのように改善されるんですか。

大谷大学推進室長 すいません。ちょっと記載の仕方がまずくて分かりにくいのと、ちょっと違うふうを受け取られる、笹木委員さんが指摘されたような受け止め方になってしまう書きぶりでした。校舎は平成30年度に完成すると。研究機器類については、先生の赴任の前年度に整備していくということですので、研究機器類については平成29、30、31年度の3か年ということですので、この文書の内容からすると、そういうふうを受け止められないので、大変申し訳ありません。

笹木慶之委員 言い訳はいいんですが、そういうことじゃなしに、研究機器類は平成30年度完了ですか、平成31年度の完了ですか。どちらか訂正せんといけんでしょう。

大谷大学推進室長 研究機器類については、先生方が赴任される前年度までの整備ですので、予定どおり平成29、30、31年度の3か年で整備をしていくということです。

笹木慶之委員 最後になります。課題及び改善策のところの文章表現を、また変えないといけませんね。

大谷大学推進室長 そうですね、ちょっとこの書きぶりでは今笹木委員さんの言われたとおり、誤解が生じる、正確になっておりませんので、変える、ちょっとまた担当部署と協議していきたいと思います。

笹木慶之委員 訂正を速やかに行ってください。

山田伸幸委員 地方債のことをお伺いしたいんですが、95%、75%となっているんですが、金額的にはどういう配分なんでしょうか。95%が幾らで、75%が幾らなんでしょうか。

山本大学推進室室長補佐 平成29年度に借入れをしました32億7,930

万円の内訳ということでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）
合併特例債が11億8,500万円。それから、学校教育施設等整備事業債の建物に当たるもの、これが14億8,690万円。それから、同じく学校教育施設等整備事業債、備品に充てたものが6億740万円。合計で32億7,930万円です。以上です。

山田伸幸委員 この合併特例債は、平成28年にも、平成30年にもこれを充てられていると考えていいのでしょうか。

山本大学推進室室長補佐 はい。おっしゃるとおりです。

高松秀樹分科会長 ほかに質疑はありませんか。なければ、審査事業32番に入ります。32番の説明をお願いします。

大谷大学推進室長 審査対象事業ナンバー32、公立大学法人山口東京理科大学運営費交付金事業につきまして御説明します。資料は106ページになります。当該事業の概要につきましては、山陽小野田市が設立しました公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の業務の財源に充てるために、地方独立行政法人法第42条及び公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学運営費交付金交付規則に基づき、公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学に対して運営費交付金を交付するものです。この運営費交付金は、市が定めた公立大学法人が6年間で達成すべき業務運営に関する中期目標を達成するために活動する公立大学法人の業務の財源に充てることにより、法人の持続的な運営を確保することを目的として、公立大学法人が定めたその事業年度の業務の運営に関する計画である、年度計画に定める事業を実施するために要する経費のうち、予算の範囲内で市長が定める額を交付するものであります。当該事業の平成29年度の決算額は、15億4,508万5,000円で、その財源は公立大学法人運営基金からの繰入金2億1,694万4,000円と、一般財源13億2,814万1,000円となっています。財源の内訳

につきましては、資料107ページを御覧ください。公立大学法人運営基金からの繰入金2億1,694万4,000円につきましては、その財源として学校法人東京理科大学から頂いている施設整備負担金が4,745万7,000円と、地方交付税1億6,948万7,000円となっています。一般財源13億2,814万1,000円につきましては、平成29年度の大学に係る地方交付税措置額から12億7,768万1,000円と、財政調整基金からの繰入金が5,046万円となっています。なお、平成29年度の大学に係る地方交付税措置額は15億9,710万1,000円ですが、平成29年度は、交付された普通交付税額の20%を薬学部校舎建設費に充てることとしておりましたので、3億1,942万円を控除した額を運営費交付金に充てています。次に、活動指標又は成果指標につきまして御説明します。資料105ページを御覧ください。公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学工学部の学生数の目標達成率は106.9%、公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学大学院の学生数の目標達成率は100%となっており、いずれの目標も達成しています。これらのことから、平成29年度の目標達成度はA評価を付けています。今後も引き続き目標達成できるよう、大学と連携してまいりたいと考えています。当該事業の課題及び改善策につきましては、運営費交付金の算定に当たっては、公立大学法人の業務や果たすべき役割を十分に踏まえつつ、より自立的、効率的な法人運営となるよう、他の公立大学法人を参考にしながら、運営費交付金の算定ルール確立に取り組んでいかななくてはならないと考えています。最後に、今後の方向性としましては、当該事業は、公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の業務の運営に必要な経費に充てており、大学を運営していくためには必要不可欠なものであり、有効な事業であります。現在掲げた目標は達成していますので、今後も引き続き目標が達成できるよう、効率的な大学運営をしていくため当該事業を進めてまいりたいと考えています。以上で説明を終わります。よろしく申し上げます。

高松秀樹分科会長 説明が終わりました。委員の質疑を求めます。

山田伸幸委員 活動指標、成果指標で、工学部の定員が800人のところが、現在896人、平成29年度941人なのですが、平成30年の973人という数字は何なんでしょうか。

山本大学推進室室長補佐 平成29年度が880人に対して、いきなり具体的な数字になっていると、平成30年度がですね。これは大学の予算に合わせて平成29年度から少し考え方が変わっているので、ちょっと数字もきれいな数字になっていませんが、当初の予算上の数字を目標として平成30年度は挙げているといったところです。

山田伸幸委員 これは973人という数字じゃないんですか。何で880人が、941人か、941人が973人に増えるんですかね。一時期、1か年ほど340人という定数を大幅に超える学生が入ってきたことがあるんですが、それは減っていくのは分かるんですけど、なぜここで増えるんでしょうか。

大谷大学推進室長 これは、そのまま人数340人が進級、上に上がっているわけではありませぬので、340人が今現在、4年生、これが340人取った年代、学年になります。現在、山口東京理科大学の4年生の工学部の数は282人、3年生が285人となっていて、全員が4年生に上がられていないので、ちょっとその辺が残っているということと、現在、工学部、平成30年度の実績としては979人いらっしゃいます。この辺で大学の実際の予算上組まれる中の人数を、今予算として市も充てているということです。

高松秀樹分科会長 ほかに質疑はありますか。

中村博行委員 交付税の関係で、学生総数の115%を超えると交付税に影響を与えるというような話を聞いているんですが、これだけ取っていて、

そういった懸念があるのか。今後に対してですね。

大谷大学推進室長 現在の段階で公立大学には115%の枠は、多分、実際にはないと思うんですが、公立大学とか私立の大学も今定員数をすごく国のほうも厳しくなっていますので、今後、公立大学のほうにしても当然、国立大学がこういった115%、110%とかになっていくと、当然公立大学もそのようになっていくんであるかと考えていますので、今後も定員の確保は当然なんですけど、定員をどれだけオーバーして取るかということは、今後の学校の運営の中でも非常に大切になってくると思いますので、その辺はよく大学のほうも考えておられるかと思います。

奥良秀委員 活動指標の中の薬学部的人数なんですが、地元の高校生とか、地元採用というものを、今後どういうふうにしていかれるのか、そういったお考えを教えてください。ちなみに、市民フォーラムの中では、藤田市長から拡充していきたいというお話がありましたが、今どのように動かれているのか教えてください。

古川副市長 薬学部は定数120名で、県内の入学生が36名だったと思います。推薦入学の枠が30名でして、この推薦入学は全て県内枠。また、市内の高校の枠も各校一つずつ持っているということです。基本的には120名のうち30名を県内枠で設定していますので、当分の間その方向で進むと思いますが、今後、山口県の薬学部志願者の動き、また、私どもの大学の使命を考える中で、今後、検討材料になると思いますが、この何年かは今の数字で推移するだろうというふうに聞いています。

奥良秀委員 学長も、是非とも山陽小野田市又は地元の学生を入れたいという強い気持ちをお持ちのような話を聞いていますので、今後とも力を入れて頑張ってくださいと思います。

古川副市長 大学とタイアップして進めてまいりたいと考えています。

山田伸幸委員　これは予算に関わることで申し訳ないんですが、住民票を登録された方に対する補助金というか、それは、どのような状況ですか。それはこの予算から出ているんですか。

大谷大学推進室長　こちらの事業につきましては商工労働課で予算化して取り組んでおられます。

高松秀樹分科会長　ほかに質疑はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）なければ、決算書の歳出172ページから177ページ、全部を通して質疑がある方は挙手をお願いします。大学費です。

吉永美子委員　先ほどの31番の中でも出て、聞いていたんですけども、この決算のところで聞こうと思ってやめていたんですが、旅費のところ、9節65万4,440円ということで、かなり不用額が出てきているわけですけども、これは東京理科大学とか厚生労働省とか行かれた分だと思うんですが、なぜこんなに不用額が出てきたんでしょうか。

大谷大学推進室長　こちらにつきましては、当初薬学部の設置申請ということで、文科省に行いましたので、その調整や、その後の事情聴取じゃないですけど、内容を聞きたいということとかあるのではないかということと、あと薬学部の校舎の建設を進めておりますので、その中で東京理科大学の薬学部に行って、視察じゃないですけど、そういった調整もあるのではないかとということで予算措置をしていたんですが、文科省等にはなかったということで、本来なら不用額として補正で落とすべきところでしたが、そのまま残ってしまったということです。

吉永美子委員　厚生労働省の関係だけでこんなに落ちて不用額が出てしまったんでしょうか。何が言いたいかということ、東京理科大学に行かれたということですが、何回行ってどのように協議されたか。要は先ほどから議

案の中でも出てきました。本当に東京理科大学のやり方をどう学んでこられたのかというところがあったのでお聞きしたいところです。お願いします。

大谷大学推進室長 東京理科大学の薬学部には1回行っております。国等は特にこういったことで内容を聞きたいという御連絡等はありませんでしたので、国はゼロです。あとはこの大学の事業につきましては、それぞれの部材等の工場の検査等に行っておりますのでその旅費ということで、実際には東京理科大学のほうには1回のみ、あと薬学部の動物舎、薬草園の中で理科大学以外の大学にも視察には行っています。

山田伸幸委員 175ページの13節委託料の中に、法律相談業務委託料があります。32万4,000円となっているんですが、山陽小野田市は現在顧問契約をされた弁護士はおられないのでしょうか。

大谷大学推進室長 現在、今年度は分かりませんが、当時、平成29年度については顧問弁護士はいらっしゃらないということで、別に法律相談の委託料を取ったというところです。

山田伸幸委員 その下にある設計委託料は、こういった設計でこの1,000万円が出ているのでしょうか。

大谷大学推進室長 こちらにつきましては、変更工事等を行っておりますので、その関係で設計会社に委託する必要性が生じたということで、こちらについては、あい設計と委託契約を締結しています。

山田伸幸委員 植物園の整備工事についてお聞きしたいんですが、現場に行ってみますと、かなり土質が悪いといいますが、よくあれで栽培されておると感心しているんですが、非常に排水が悪い上に石がごろごろしていて、非常に苦労されているとお聞きしたんですが、そういった内容の

土質の点検等、薬草の栽培にふさわしい土質かどうかの点検を行われたのかどうか。いかがでしょうか。

榎坂大学推進室副室長 薬草園を本市で造ったのは初めてです。今御質問がありましたけれども、土壌については畑の泥を購入して設計で計上し現地のほうに設置していますので、薬草園には薬草が育つ土壌だと認識しております。

山田伸幸委員 今言われた泥というのは上辺だけですよね。その下の真砂土とちょっと掘っただけで石がごろごろ出てきているんですよ。あれ、整備されたときに、そういった土質であることは分からなかったんですか。

榎坂大学推進室副室長 先ほど申しましたけれども、薬草園を私どもが整備したのは初めてです。薬草園については、江汐公園に造っているんですけども、もともと江汐というところは、粘性土が多いところなんです。その粘性土の上に覆土を掛けて薬草園用の泥を設置したということですので、これで私どもは薬草ができると認識して工事を完了したわけです。

山田伸幸委員 テレビ共同受信施設組合負担金が49万6,500円計上されています。先ほどの事業シートの中にもその関係の予算が計上されています。工事負担金個人2件、アパート2棟、組合加入金、組合費ということなんですが、これは市のほうが加入して迷惑を掛けた民間の方々に提供しているという考え方でよろしいのでしょうか。

大谷大学推進室長 今おっしゃられたとおり、市が加入をしています。

山田伸幸委員 では、その後のテレビの受信具合、あるいはその後ほかの御家庭から苦情等は寄せられていないのでしょうか。

大谷大学推進室長 テレビの受信具合につきましては、このテレビ共同組合の

アンテナを使わせていただいていますので、しっかり映っているということと、その後、これ以外に何か苦情等があるかということですが、特にお聞きはしていません。

高松秀樹分科会長 質疑はないですか。（「なし」と呼ぶ者あり）それでは歳入に入ります。歳入の104ページからです。寄附金について17款。これについて質疑はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）次は18款、基金繰入金はなし。次は20款、諸収入の雑入。

笹木慶之委員 112、113ページですが、これは審査対象になっていますが、ちょっと見るけど分からんのですよ。どこなんですかね。

大谷大学推進室長 これは2の総務費雑入の人事給与システムの負担金です。

笹木慶之委員 これ全額ですか。

大谷大学推進室長 こちらにつきましては、大学分として249万3,240円です。あとは、ほかの部署の金額になります。

高松秀樹分科会長 20款。ほかよろしいですか。（「なし」と呼ぶ者あり）なければ、122ページ、21款市債。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

大谷大学推進室長 申し訳ありません。ちょっと説明を誤っていました。先ほどの人事給与システムです。人事給与システムのうち、先ほど申し上げた249万3,240円につきましては、その一部でして、これが人給システムに対応する業者との契約の金額、そして、もう二つありまして、このときに扶養手当の改正をしていますので、その費用としまして12万4,740円、そして、この人事給与システムは市にシステムがありまして、それを大学までつなげておりますので、その回線使用料としま

して3万9,116円です。それを足して総額が265万7,096円です。大変失礼しました。

山田伸幸委員 戻って申し訳ありませんが、寄附金のところで、105ページを見ているんですが、総務費の寄附金のうちこの大学に関わるものは幾らなんでしょうか。

大谷大学推進室長 50万円になります。

山田伸幸委員 これは何かどういったところからの寄附金なんでしょうか。指定か何かあって、この50万円が当たっているんでしょうか。

大谷大学推進室長 こちらはメスキュード医療安全基金から、平成27年度から毎年頂いていまして、これは指定寄附ということで山口東京理科大学に広くその発展に寄与することを目的とするということで寄附を頂いています。

高松秀樹分科会長 ほかはないですか。（「なし」と呼ぶ者あり）これで質疑を打ち切ります。以上をもちまして、一般会計予算決算常任委員会理科大分科会を終わります。お疲れ様でした。

午後0時12分 散会

平成30年（2018年）9月11日

一般会計予算決算常任委員会理科大分科会長 高松秀樹